Shinrin RANGER あきる野

森林レンジャーあきる野新聞

Vol.157　2023年9月号
発行：森林レンジャーあきる野（パブロ）

2023年・変化の年

コロナの心配が和らぎ、社会にかつての活気が戻りつつある今年は、自然界ではあいにく、温暖化などの影響があるからか、生き物の時期がずれたり、行動が変わったりする中、ナラ枯れも拡大した年となっています。現在、ナラ枯れは市全体に広がり、ブナ科（ブナ属を除く）の樹木の約9割にナラ枯れを媒介するキクイムシの穿孔跡がみられます。そのため、今後の展開に不安を隠せない森林の大変化という事態になってしまいましたが、この出来事により自然の流れ（反動）はどうのようになるのかも興味深い話ではないでしょうか。

そんなこんなで、今回は、今年の発見などの自然の話題に触れる新聞になります。秋口の優しい朝風のように、これからの季節の楽しみを思い浮かべながら、いろいろ紹介します。

あきる野ドリーネ？？

初夏頃、以前から気になっていた石灰岩の山地に登り、どんな様子なのか調べてみました。一定の場所まで登り切ったら、馴染みのある地形が目の前に広がりました。それは、ドリーネという、石灰岩などの地層にできる窪地です。初めは水により石灰岩が溶解し、長い年月が過ぎて地下に洞窟ができてしまいます。その空洞が広がると、やがて地面が崩落し大きな窪地が生まれます。あきる野で見つけたドリーネと思われる窪地は、地形からすると、まだまだ若いので大きな窪みになるのはずっと先ですが、地下に繋がる穴もみられ、既に鍾乳洞が存在しているかも知れません。

まさか、あきる野にあの真っ黄っきな鳥が！

あきる野の河川敷は、どんな季節でも尋ねてみると「いいことがある」大自然です。様々な調査などで定期的に踏査する多摩川や秋川ですが、5月下旬に調べに行ったら、やや遠くにそびえていた樹木に真っ黄色なシルエットを目視しました。双眼鏡で覗くと、なんとコウライウグイスという大陸の野鳥ではないかと、観察し始めて間もなく、北方向に飛び去ってロストしたため、わずか1分の出会いでした。

日本では、コウライウグイスは非常に数少ない渡り鳥で、そのほとんどは5月中旬～下旬に日本海側経由で渡るため、東京周辺での記録は極めて少ないです。東南アジアから主な繁殖地である中国を目指して渡るので、主な経路は日本ではないですが、調てみると、どうやら過去に国内で繁殖した例もあるようです。

渡り鳥以上にこんな自由性を感じられる生き物が存在するのでしょうかと、二度と会うことは非常に難しい鳥との短い出会いは、しばらくの間に頭から離れませんでした。みなさんの身近な自然でもこのような奇跡が起きるかも知れませんよ！

夏前・夏中・・・ 暑い中、まだまだ続くあきる野新発見

ノスタルジック　ヤマカガシ

白黒型のヤマカガシとの出会い

６月の涼しげな梅雨の晴れ間の日、とある山道を歩いていたら、日当たりのいいスポットで蛇が日光浴をしていました。何だか見たことのない雰囲気の蛇だと思いながら近付くと、どう見ても黒い模様はヤマカガシの特徴とマッチしますが、全体的に灰色がかった体色で、特に首の辺りに目立つ赤や黄緑のバックカラーはみられませんでした。

実は、蛇類では、色が変異するのは稀にあることで、白化や黒化の変異は特に有名です。このよう、ヤマカガシにもいくつかの変異が知られており、今回の個体はその中の一つの白黒変異になります。初めて見ると、かなり新鮮な気持ちになります。このような素敵な出会いもあるというのは、まさに自然の素晴らしさの証！白黒個体なので、何だかノスタルジックという印象ですね（笑）。

初見のウラミスジシジミ

７月、市内でまだ確認したことがなかったウラミスジシジミを2か所で発見することができました。この蝶は、コナラなどのブナ科を食草とするシジミチョウの仲間です。より普通種であるアカシジミにかなり似ている小さな蝶で、翅の裏にある三つの筋が目立つのが名前の由来ですが、この特徴というよりも、赤いシジミチョウなのに翅の表は綺麗な青紫色なのが一番の魅力であると思います。

西多摩昆虫同好会の方々に伺ったところ、市内の数か所で記録があるが、そのほとんどは数年前からの記録で数が少ないようです。今回の記録はこれまで確認された場所とは異なる新たな生息記録となります。

観察した個体は低木の葉の上で休んでいる時に翅を閉じている姿（写真）を見ることができました。

しばらくすると、本来の活動範囲である森林の樹冠に素早く移ってしまったため、全開した翅の美しい姿は残念ながら見ることができませんでした。

その名も知らず、幻のシロテンマ

真夏の猛暑日が続いたある日、奥山の山道の巡視に合わせ、市の自然環境調査部会植物班のメンバーと加瀬澤レンジャーの植物調査に同行しました。

２人と違う範囲を歩いたら、見たことのないランを見つけたため、２人を呼びました。皆で観察すると、「オニノヤガラというランに似ている」とのことですが、いろいろな特徴が違いました。よく調べると、別変種であるシロテンマというランの特徴とマッチしました。葉もないこのようなランの仲間は少し奇妙ですが、なぜか魅力的に感じられます。花は終わりかけでしたが、近年増加しているシカによる採食圧や盗掘などの影響から逃れ、市内での初記録となるシロテンマが山の静かな森に潜んでいることを嬉しく思いました。

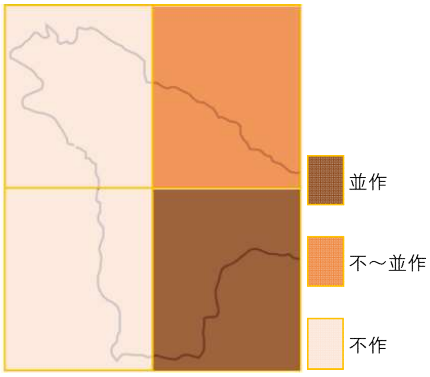
加瀬澤レンジャーコーナー 「どんぐりの結実状況」報告

この調査は、ツキノワグマなどの大型哺乳類が人里へ出没する可能性の大小を評価し、地域への注意喚起に役立てる目的で実施しています。

樹種ごとのみのり

樹種	ブナ	ミズナラ	ヤマグリ	コナラ
結果	凶作	不作	不～並作	不～並作

地域ごとのみのり



今年は、ナラ枯れの影響もあって市の西側全体のどんぐりは**不作**です。
人里に近い栽培種のクリやカキ等の野生動物のエサとなるものを収穫する、ゴミは決まった時間に出す、養蜂巣箱や畑などの管理をするなど、野生動物を人里に引き寄せないための対策にご協力をお願い致します。